

高

臥牛

大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第5号

発行者・会長 後藤 鉄石
編集者・足立 五郎
発行所・関東同窓会事務所
東京都中央区築地2-7-12
15山京ビル2階205号
03-3543-8747

会務報告

同窓会のあり方

会長 後藤 鉄石 (10年卒)



度は各年度にまたがる組織として之をたて糸と見ることが出来る。このよ糸とたて糸が会の考え方である。

各年度幹事の重要さはもちろんであるがここで委員会のたて糸もまことに大切で、(一)委員会活動を通じて次世代をうけつぐ人材を育成し伝承していくことが出来るという一面と、(二)現時点において後継若くは世代の事情を同窓会に反映出来るという一面と、二つの存在理由がある。

先年上越線の塩沢に行って塩沢つむぎの織機場を見学した。何十年というベテランが上品な柄をあらかじめ染め分けた糸で、たて糸とよ糸を寸分の狂いもなく丹念に織り上げていく見事に感心したものである。

さて首都圏の様々な特殊な環境では人間の関係はよく砂の集りにたとえられる。その砂の中で同窓会を組織し存続しかつ発展させていくためにはそれなりの配慮が必要である。各卒業年度毎に幹事をきめて活動して頂き、これをよ糸(幹事会)とし、各委員会の制

し十五名の委員を擁する大組織であるが縦断的組織化、総会の動員力と計画に格段の力を発揮して頂いており今後とも会の骨幹をなすであらう。

広報委員会は足立五郎氏を委員長とし、

六月と十二月の年二回の広報誌「臥牛」の編集発行を担当し、登録会員全員に送付し、会員意識も漸次高まりつつあり同窓会の血脈的存在となることを確信する。

財務委員会は甲斐正和氏を委員長とし総会開催時の多忙な会計処理及び庶務を担当し完璧な手腕を発揮されつつある。

秋の常任幹事・幹事会

副会長 伊東七五三八 (20年卒)

十一月八日、新青山ビル二十三階中央新光監査法人研修センターで、定例の秋の常任幹事、幹事会が開かれた。出席者二十二名。議長佐藤映之氏。

二、会員の把握拡大について、粟生利信氏から、

十一月八日、新青山ビル二十三階中央新光監査法人研修センターで、定例の秋の常任幹事、幹事会が開かれた。出席者二十二名。議長佐藤映之氏。

一、会費について、得丸大典氏から。1、維持会員数が今年新たに一二七名増え、旧維持会員一五二名と合わせて二七九名となった。入金は一七五万八〇〇〇円。卒業年次によるアンバランスは今後の検討を要する問題である。会費の支払いについてよりよいアプローチの方法を考えた。

ひ事務局へ、クラス会の名簿も一通をぜひ事務局へ送っていただきたい。たゆまず、根気強くこの仕事を続けたい。三、会報臥牛について、伊東七五三八氏から。

臥牛について感想、意見をいただきたい。また、思ったこと、感じたことクラス会情報、会員の動向など原稿を寄せていただきたい。

四、来年の総会について、佐藤映之氏から。

会費六〇〇〇円ではプリンスホテルは無理である。酒代を除いて七〇〇〇円(男)六〇〇〇円(女)程度以上でないといと会場探しは困難を極める。会員の

中で、この種の関係の仕事をしている人を探して、なるべく早い時期に会場と期日を決めたい。期日は五月二三日(土)か六月二〇日(土)かに決めたい。懇親会の運営は来年も当番学幹事(昭和二六年卒、昭和二六年卒)の創意工夫により会を盛り上げてもらいたい。総会三〇分、懇親会二時間程度がよいのではないか。

以上活発な議論の中に閉会。次は平成四年四月に開催の予定。

会費の納入にご協力ください

◎維持会費、一口五〇〇〇円
何口でも結構です。

◎払込み方法

・郵便局備え付けの「振込用紙」使用
・口座番号 東京八二四〇七六一
・加入者名 大分県立竹田高校関東同窓会

先輩を訪ねて

政治改革の断行こそ喫緊事

お客様・矢嶋三義氏

・とき 平成三年十月九日
 ・ところ 国会図書館六階研修室
 ・聞き手 足立五郎

矢嶋三義氏 略歴
 明治44年大野郡長谷村(現大飼町)生。長谷小学校5年修了で竹田中学に進学し昭和4年卒業。明治専門(現九州工大電気科)に入学。1年後九大付設臨教数学科に転じ昭和8年卒業。栃木、福岡、長崎、熊本各県の旧制中学、高校に勤務。戦後労働運動に参画。昭和25年~37年参議院議員。その後政治活動に参画。現在無党籍。参議院協会(参議OBで超党的に結成)理事として運営活動に参画。K.K.和興参与。

——本日はご多忙のところ有難うございます。早速でございますが、先生は明治の終わりのお生まれで、今年八十八歳とのこと、ますますご健健でなにございます。何か、矢嶋式健康法でもございましたら、お聞かせ下さい。

矢嶋 特に健康法というものはありません。明治から平成まで四代に渡って生きて来ましたが、若い頃から生存目標を二十一世紀が訪れる日と設定し、暴飲暴食をせず自然態で生きているというだけです。



最近の矢嶋三義氏

——それはたいへん喜ばしいことですね。ところで、小学校五年修了で難関の竹田中学校に合格なさったとのこと、たいへんな神童でありだったようですね。

矢嶋 父は高等小学校二年の兄と小

学校五年の私とをいずれも初めて竹田中学校の入学試験を受けさせました。幸い兄弟一緒に入学したのですが、村長をしていた父にしては、進路指導は無定見なものでした。竹田中学校の先生はそうそうたるメンバーでした。

——その頃の上級学校への進学状況はどうだったでしょうか。
矢嶋 そうですね。私は首席でしたので、担任の林先生から「無試験入学できるので明治専門(現九州工大)へ行け」と言われました。明専は、帝大と高等工業の中間的四年制で、なかなか立派な学校でした。実習等帝大生に負けてないのに、帝大の学生と比較されてくやしいという話を先輩から聞くにつけ、大陸の満鉄へ雄飛すべく決心しましたが、胸囲が身長半分以上という基準にパスできず苦悶しました。折しも、九州帝大付属教員養成所数学科(三年制)の募集が発表されました。

——そうそう、明専から臨教へ移られたのですか。そのところをお聞きしたいのですが。



矢嶋 私は教師になって一生懸命生徒の教育に当たれば、帝大も専門学校もないと考え、ひそかに寮をぬけて試験を受けに行きました。

——当時は、たいへんな不況時代でしたが、進学希望者は多かったのではなかったでしょうか。
矢嶋 合格者は、二十五人でした。高い競争率でしたよ。合格後に知ったのですが、当時国立学校在籍のまま、他の国立学校に合格した場合、双方無効となるという規定があり困りました。そこで私は、担任の上村先生に涙ながらに訴え、当時の友田校長の特別配慮で、円満退学、無事入学が出来た次第でした。

——授業料は、不要だったのですか。
矢嶋 はい。その上、月に二十五円頂けるのです。だから、合格者は殆んど中

学校では成績優等生で貧乏人の子ばかりでした。

私は、進路指導の重要性を骨身にしみて痛感しています。人生の宝である学友の少ないことを嘆きます。当時は楽になれた弁護士に進路指導下さっていたならと折々思います。

——卒業後は予定どおり教育界にはいりになられましたが、先生の教育理念をお聞かせくださいませんか。
矢嶋 私は、日本一の数学教師になろうというアンビシャスを持つと同時に、経験領域を広めるために、スカウトされるままに栃木、福岡、長崎、熊本四県の中学、高校に十六年間在勤しました。

——進学、進路指導についてご意見や先生の経験をお聞かせ下さい。
矢嶋 四県の十六年間は、全力投球の連続で充実した教員生活でした。あの時代、私は、受験の神様と言われていました。入試問題が良く当たったのです。生徒の特性発見に努力して独自の進路指導をしました。それで、大体うまくいきましたね。大成された教え子にお目にかかる時、その人の中に自分が生きているような喜びを感じます。一言で言うと「教育は人です」。両親も教師も、進路指導の重要性を真剣に考えてほしい。その子の特質を精一杯探し求めて、進路指導することが一番大切なことだと思います。

(現三菱重工工業社長相川氏は、「私の転機」と題して、「矢嶋先生の進路指導がなければ現在の自分はない」とと日刊紙に述べておりました。)(長崎中学

卒) 現在わが国の受験体制の現状は極めて深刻で、国家的問題です。各界の覚醒を要します。

——次に政界にはいりになられた動機を伺いたいですか。
矢嶋 素朴なことですが、戦争中の進路指導で何人かの教え子を亡くしました。心が痛み平和な日本の政治革新をやりたいと思ったのです。好きな教育と数学をなげうって入ったのだから、日本の政治改革の方向づけの証しでも見届けたいと死ねません。

——最後にわが国の政治で今最も大事なことは何だとお考えでしょうか。
矢嶋 国会改革を含む根本的な政治改革の断行です。喫緊事です。多数与党のおごりと、野党ボケとでおりなす金まみれの不正。非効率な政治を革新することです。

対策は、紙面の関係上主柱となる選挙制度について結論だけ申し上げます。衆院に小選挙区と比例代表併用型、参院に比例区廃止を含む改革を決断することです。私は、現在信託する政党がないから、無党籍で新党結成論者として言動しています。

現在のままでは、激動激変を続ける国際社会に対応できないと危惧します。主権者には、よく見聞し、自ら考察し大いに発言し行動することを期待します。

——いろいろと貴重なお話を有難うございました。これからお元気でご活躍頂き、後輩をご指導下さいますようお願いいたします。

ふるさと便り

山紫水明類なし

竹高同窓会事務局長 波多野 英次 (28年卒)

関東同窓会の皆様お元気で御活躍の事とお察し申し上げます。

先ずお知らせしなければならぬ事は昨年七月の水害で不通となっていたJ

R豊肥線が、約一年三ヶ月ぶりに全線

開通したことです。緒方駅と宮地駅間

の被害が大きく、一時は廃線の心配も

広がっただけに感激もひとしおであり

ました。お盆前の八月十日に緒方、竹田

間の部分開通、十月十九日の竹田、宮地

間の開通で完全復旧しました。竹田駅

始め各駅で花火を打ち上げる等祝賀会

新装になった校門



が催されました。歓喜の中で、昔、初めて鉄道が敷かれたとき、沿線の人々の喜びはいかばかりであったかと感慨にふけた事でした。

次に郷土の各種イベントについてであります。秋は又一段と多く、岡城親

月祭を初め、岡藩ゆかりの三ヶ月岩親

月祭それに伴う新能、瀧廉太郎音楽祭、

田能村竹田美術祭や各種の文化芸能祭、

城原八幡神社初め各地のお祭等、数え

上げればきりがありません。最近では特

に「おかくら」が盛んになり、お隣の波

野にある「神楽苑」では、前NHKの鈴

木健二アナウンサーの解説により、

神々の舞踏として、衛星中継で全国に

TV放映されました。岡藩主中川氏

代々により保存継承された清川の「御

嶽神楽」や、「緒方三郎太鼓」は圧巻で

ありました。

次に、母校に関する事では、写真が少し小さいですが、大変立派な校門が完成しました。又、旧高女卒の集いであります「稲葉会大会」が盛大に開催されました。この度、司法書士の児玉会長が引退され、英雄寺の佐久間会長が後任に決まりました。大正五年卒の栗本カツ様始め昭和二十三年卒の百数十名のレディーが参集しました。本部同窓会総会よりもウーマンパワーの方がはなやかではないかとの評判でした。

又、十一月二日には予定通り、昭和三十六年卒の新日鉄常務の阿南惟正氏の講演会を全校生徒を対象に開催し、深く感銘を受けました。翌三月には二六会の同窓会が行われ、皆さんより世界の時刻が表示されたワールドタイムウ

緒方町の近況

赤嶺 幸一 (20年卒)

在京の皆様、お元気で、ご活躍の由、お慶び申し上げます。

緒方町は中川公の時代から「緒方五千石」として岡藩七万石の台所をうる

おして来ました。祖母、傾山から流れ出る緒方川の恵みにより、戦中、戦後の食糧難時代は食糧増産の基地として農業

を中心に、発展して来ました。

しかし飽食時代、米はなれば進み、ガットでも米の輸入が強く迫られ、内

も外も農業状況はきびしく、若者は農

外取入を求めて仕事に出ています。農業の主力は五十歳から六十歳代で、後継者不足は深刻です。昼間部落に残っているのは老人ばかりです。

昨年七月二日の大水害で大川添いの水田は大分流失し、志賀の鉄橋も落ち、一年ぶりにこの八月中旬やっと開通しました。今年は又九月二十七日の台風十

九号で山林や稲作が大きな被害を受けた瞬間最大風速は四十米を超えたかも知れませんが、三宮神社の大きな御神木も根元から倒れました。

「米どころ緒方」ではなんと云っても、米麦が中心ですが、近年さといもや

オッチと云いますが、世界地図を基板とした大きな時計を母校へ寄贈して頂きました。御礼を申し上げます。では皆様の御健勝をお祈り申し上げお別れ致します。

人が多く、約一億の売上げ。○さといも、水田さといもとして大阪市場で好評、三億一千万円。○カボスが一五六トンで一千五百万円。○メロンが一、二haで一千五百万円の売上げです。

昭和四十年頃までは緒方中学校の前は水田地帯でしたが町役場を中心に消防署やAコープ等が出来、その後「スーパーまつり」に、「衣料のながよし」の新店舗が出来て、この辺りは竹田、三重町に次ぐ商店街を形成しています。

近くには町の誘致企業である第一製作所(電気部品)、オガタアパレル(衣料)、ハーネス(自動車部品)等の工場があり、それぞれ地元の従業員が百名程度勤めています。退社時間には、大勢の買物客で賑わっています。

緒方町では福祉の町づくりにも力を入れています。町営の常楽荘をはじめ特養老人ホーム任運荘、身障施設騰々舎、それに老人デイサービスセンターなどみ塾も十月一日から開所しています。

九月には五千石祭が盛大に行われました。もうすぐ川越し祭ですが、大勢の若者が故郷に帰って来ることでしよう。皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



五千石祭・綱切り 撮影板井基裕氏

ハウスイチゴにメロンの栽培も盛んになりました。カボスと全国的に名前が知られるようになり、大阪、東京市場にも出荷しています。緒方牛も味がとろけるようになっています。好評です。

○米、一〇〇〇ha、五五万俵、十二億円。

○麦、農家のボーナスとして植付ける

(写真は同級の板井基裕兄から借用しました。板井兄は電々公社退職後趣味で写真をやっていますが県美展に毎年入選しています。)

クラス会の動き

豊肥線全線開通記念同窓会

森田 耕吉 (20年卒)

昨年七月の豊肥地区大水害で不通となっていたJR豊肥線が約一年三ヵ月ぶりによみがえり、一〇月一九日から全線開通することを記念し、竹中四四回卒業生記念同窓会を竹田市内のホテル岩城屋に三七人が出席して開催した。入学時一四二人であった同期生も五〇年を経た現在物故者二八人を数え、全員で故人を偲び黙禱を捧げた。

発起人渡辺通男及び熊谷恭直君が挨拶し、森田耕吉が欠席者の近況を披露した。

その後、市長後藤藤宗君による市政の近況報告の後、三七人がそれぞれの経てきた人生哲学を披露(年齢の関係が病気に関する話が多く、事実病気が

昨年七月の豊肥地区大水害で不通となっていたJR豊肥線が約一年三ヵ月ぶりによみがえり、一〇月一九日から全線開通することを記念し、竹中四四回卒業生記念同窓会を竹田市内のホテル岩城屋に三七人が出席して開催した。入学時一四二人であった同期生も五〇年を経た現在物故者二八人を数え、全員で故人を偲び黙禱を捧げた。

発起人渡辺通男及び熊谷恭直君が挨拶し、森田耕吉が欠席者の近況を披露した。

席を理由とする者が六人であった。)し、大阪より出席した木田幸男君の乾杯により懇親会に入った。三年ぶりの竹田市における同窓会であり、はるばる千葉より帰竹した渡辺清一君は初めての同窓会なので夫人同伴であり、もう一人の夫人同伴者山本省吾君は豊肥線開通号に乘車し、記念切符を皆に見せていた。

「祝 豊肥本線全線開通一番列車出発式」は、当日午前六時から豊後竹田駅

ホームで行われ、一日駅長の後藤藤宗昭市長(同期生)が出発合図。乗客を乗せた六時四五分発熊本行き普通列車は、関係者の拍手に送られてホームを離れた。豊後竹田駅周辺では開通記念の神楽・舞踊・太鼓・楽団演奏・ミニSL列車の走行などの催しや特産品販売等が一日中繰り広げられ復旧を祝福した。

同窓会は、閉会後も二次会・三次会と深夜までも続けられ久しぶりの邂逅を楽しんだ。

なお、
衛藤文公・徳田佳生・斎藤秋吉・平岡武三・津島明浩・渡辺英直君の消息を御存じの方がいましたらお教え下さい。



北九州三二会、於緑化フェア会場 3.10.20

北九州三二会

—末吉北九州市長を迎えて

利根 範子 (32年卒)

秋晴れの十月十九日、二十日、北九州小倉区の法華クラブにおいて、北九州三二会が開催されました。

関東、関西地区と地元九州から総勢五十六名、来賓に先輩の末吉北九州市長(二八年卒)、首藤忠良、首藤昭夫両先生のご出席を得て、恩師や、なつかしい級友との再会、三十年がタイムスリップして、青春時代の高校生に逆戻り、何ちゃん、何君と話つきなく盛り

上り、重なる杯に時のたつのも忘れて、二次会、三次会と場所を変えて、就寝は

午前三時も楽しい一夜でした。

翌日は前夜の二日酔いと睡眠不足も何のその、朝九時にはホテルを出発、バスで一路若松区で開催中の緑化フェア会場へ、途中ものすごい渋滞で、着くなりどんば降りする人もありましたが、殆どの人は、グリーンルネッサンス北九州'91会場を見物しました。

出入口に集合ということで、自由行動約一時間位の少ない時間を森の美術館で、ゴッホの「ひまわり」等を觀賞し芸術の秋を満喫しました。コスモス

昭八会の報告

高宮 昇 (8年卒)

幹事の方々に感謝!

の咲きはこる園内を一周散策して、帰りは渋滞を横目にスイスイと小倉駅へ直行。そこで解散と云うことになっていたので、行く秋を惜しむかのようには、別れを惜しんで、皆さんで昼食のおそばをとって、駅でや々と解散。来年、竹田市で三十五周年開催を約して無事、盛会のうちに二日間の幕を閉じました。

平成三年九月十八日正午、一年ぶりに在京昭八会を銀座七丁目の五合庵で開きました。総員七名のうち出席は、阿南次夫、高橋満吉、益永孝、三宅善喜それに高宮昇の五名。残念ながら相馬勝、

都築正の両君は療養中のため欠席。みんな平均寿命(七五・八歳)を達成した生き残り組なので、まずはお互い近況報告と老人性ボン骨振りの披露がひとしきり、そしてビールやお酒が少々入ったところで囲碁、ダンス、ゲートボールなどなど趣味や運動の話、それにあれこれ故郷の思い出話が出て雰囲気は最高。「俺たちや幸せじゃのう」の感慨ひとしきりです。元氣な再会を約し固い握手を交わしながら三時半、小雨の中を散っていきました。

次回は来年春の頃。日時、場所は未定。昭和七、八年に女学校を卒業された稲葉会の方々にも恥ずかしながら、しかし思い切った声をかけて、高校組をみならった男女合同のクラス会にしようじゃないかと申し合わせましたが、「あんな人たち来ち呉るるじやろうか」とちよっとびり心配でもあります。よろしくお願いします。



昭八会、於銀座五合庵 3・9・18



宴たけなわ、話題は孫と体調のこと

30周年記念クラス会

古庄 隆史 (36年卒)



去る八月十七日、昭和三十六年竹田高の三十周年記念のクラス会が地元竹田のホテル岩城屋にて催された。全国から一〇〇余名が集まり、まさに大盛会のなかで、懐しい人々と旧交を温めることができた。

これだけ多くの同期生が一堂に会したのは稀だとのことだが、これも、ご多忙の中で……数年の間、用意周到に準備してこられた竹田在住の吉川、袖須、長野等幹事の皆さんのご尽力のお陰で、本当に感謝に耐えない。懇親会には日高、首藤忠、首藤昭、阿南、そして現校長の各先生方が出席され、和やかな歓談に花が咲き、高

校生の昔に戻ったかと錯覚する思いであった。又、懇親会の前には、現在母校で教鞭を取られている同期の後藤君に案内してもらい、現在の竹田高校を訪れた。当時の面影を見つ

るのがむずかしいくらい様変わりしていたが、校舎同様生徒や教育環境も相当に変化しているとのことであった。

ホテルの近くでは坪田原の鉄橋築工が進んでいた。二年前の水害のものすごさに今更ながら驚かされたが、豊肥線がこの同窓会の直前に竹田駅まで開通し、地元の人が大変喜んでおられたのが印象的であった。なお、十月には全線が開通したとのこと、心からお祝い申し上げたい。

多感な少年時代の思い出

得丸 大典 (20年卒)

○出席者、田北、留高、吉良、前田、堀、仲村、清水、得丸

二年ぶりに神楽坂でクラス会を行なった。今回は、吉良君が松本より十年ぶりに出席し、元気な顔を見せてくれた。まだ現役で、時折りワープロでお孫さんにお手紙を書いているとか。三時半全員揃い、記念写真を取り、留高君の乾杯の音頭で賑やかな開宴となった。昨年竹田のクラス会に参加した清水君が出身地の尾平に帰郷の折、なつかしさのあまり母校を一目見たいと思つて、徒歩で行ったが昔の形はなく、また竹田まで歩いて帰ったとのこと、まだまだ足腰は中学生。

酒好きな元中村校長が、伊豆大島で島民と親しくするため、理髪店で酒を飲みながら散髪したとか、体調維持のためアルコールを断ち、診療に努めている留高院長、まだまだ現役である。健康のため、酒を焼酎にし、また、酒量を減して元気な田北、前田、得丸の諸兄はまっ白だが、若々しく町会長として地域活動をされている堀君。

なつかしい汽車通学で、当時女学生にももてだった前田君も、今は黒髪の減少が著しい。吉良君はぜひ汽車通学を試みたかったとか。理由は聞かなくても明白。

話はつきず、アツという間の三時間だった。再会を期し、校歌を合唱して解散した。多感な少年時代の思い出は永久に消えない。



於神楽坂

昭和四三会クラス会

土田多恵子 (旧姓音測・43年卒)

思いもよらない台風到来に心騒ぐまま、十月十二日都内水道橋の魚料理の



於水道橋店蔵の庄 91・10・12

店蔵の庄に、昭和四十三年卒臥牛会の同期生が二十八人集合しました。

例年三月に開催していたのを、今回初めて十月に変更してみたので、季節柄竹田からカボスを取寄せて料理に使ってもらいました。前回同様、遠く仙台からもかけつけた同期生の自己紹介では、出身中学の名前が変わっていたりして、時の流れを改めて感じました。

記念写真をうつした後にあわただしく数台のタクシーに分乗して、ほぼ全員がにぎやかな赤坂の町中にある、二次会場の、同期生のやっているサバークラブキャビンに到着。

土曜は休店のところを快く開けてくれ、細かい気配りをしてくれる同期生に感謝しつつ、いくつかのグループにまとまった同期生は、さっそくカラオケのマイクを握る者、アルコールのピッチをあげる者、おしゃべりのスタートと、それぞれにぎやかなこと。卒業以来二十余年、社会の波にもまれ、いくつかの山坂を越えたであろう同期生の目は、明るくちよっぴりはにかみやの、高校時代と少しも変わらんなどと、転校生である私にも思えました。最後に校歌と、高校三年生の歌を合唱して、おひらきでした。

次の日は雨の中を、仙台からの同期生を神楽坂へ御案内。前回は浅草だったので、又今回は、どこか都内の古い町を歩こうと今から計画中です。

こうやってここに集まれる人は幸福なんよ、という同期生の言葉にうなずいた皆様、きばって、又来ちよくれ。

会員の語らい

「臥牛」の充実を願って

相談役 高宮 昇 (8年卒)

はじめにお便り差し上げます。失礼をお許し下さい。

早速ですが「臥牛」第四号が送付されてまいりましたのをつぶさに拝見致しました。従来ものものと比べますと、格段の出来栄と存じます。偏に貴殿をはじめ広報委員会のスタッフの献身的なお骨折りがここに結実したものと衷心より敬意を表しますと共にご同慶至極に存じます。伝統ある母校の同窓会報がこのように洗練された姿で、着実に発行されてゆくことは、会員一同にとってもまことに誇らしく、また嬉しいものであらうと存じます。今後ともさらに愉しく充実した会報に育って行きますことを念じております。

「あとがき」にも「皆さんの厳しいご意見を待つ」とのお言葉もありませんので、お言葉に甘えて、若干の気付きましたところを率直に以下に概記させて頂きます。

①「先輩を訪ねて」欄の新設は、クリーン・ヒットと思われました。内容、表現ともに適度の緊張感があつて、さすが先輩の言葉といった感じが致します。「聞き手」の設問も簡潔にキビキビしているところに好感が持てます。ところで、このような欄ができて、こ

登場願いたい方は沢山おありだと思えますが、私は宮崎貞光名誉会長にぜひスポットを当てて頂きたいと推薦申し上げます。お人柄、ご年齢、社会的なご成功ぶり、また、当会に対する特に財政的な貢献度といったことを考慮しての提案であります。そのほか、近藤秋男氏もいろいろな意味でご登場を期待したい方です。

②項目ごとに黒地に白抜きで見出しをつけられたのは、紙面を大変スッキリさせていると思われました。その意味から、一、二頁にも同様の見出しを打ち出せば如何でしょうか。第四号の場合ですと、さし当たり、**報告**といった見出しになるのでしょうか。

③「ふるさと便り」波多野さんの一文は大へん興味がありました。会員一同ふるさとには格別の受着、関心があることですから、さらに常にもう一名くらいの方からお便りを頂いて一頁全部ふるさと便りのスペースとして強化拡充することは如何でしょうか。この場合、母校のことばかりでなく、久住、三重、緒方等々も含めた地域の然るべき機関からの便りもまた参考にならないでしょうか。

④「クラス会の動き」これは、勿論有用ですが、ただなるべく簡単に、投稿の字数も制限して、そのかわり、なるべく多数の年次の方々の記事を掲載するように努められてはと思えます。スペースは、二頁分。

⑤「会員の点描」興味ある読物として価値があると思えます。ただ、「点描」という語感が少し気になりました。念のために広辞林を抜いてみますと、
①線を使わず点の集合で表現する画法。
②要点をとらえて簡潔に描写すること、とあります。書かれている内容は、大体において思いつくを語るエッセイ風のもののように見受けられますので「点描」はやはりそぐわないのではないのでしょうか。「随想」「ひとこと」「かたらい」「わが想い」といった言葉を思いつきました。

⑥その他
(イ)寄稿者の卒業年次は、氏名の下に括

弧書きに記入された方が読み易いのではないのでしょうか。

とある方がよい。前号まではありませんでした。

(ロ)各頁上部欄外の「臥牛」の文字はもう少し大きくてよい。また、「第〇号」を記入されてはどうです。

(ハ)第一頁題字下部に「編集者足立五郎」

以上、思いつくままザックバラに記入しました。お気軽に聞き置いて頂ければと思います。採否はもとより聞うところではありません。ご清健を祈ります。妄言多謝。

ハダカでは、生きてゆけない。

ヒダンは、中身に負けないパッケージを備えます



成形(金属・樹脂)・各種アルマイト・UV塗装・スクリーン印刷・光増・転写・箔押・イオンプレーティング等各ラインの先進化で一貫生産完備

株式会社ヒダン

本社工場 千葉県柏市花野井627 ☎(0471)31-3131代
掛川工場・大船工場

会員の語り

人それぞれの色

氏田 眞弓(旧姓園木・38年卒)

雑誌で見た、玉ねぎ染めのセーターの色に惹かれて草木染を始めて、そろそろ十年になります。

始めて間もなく、山口県の下関市で暮らした時のことです。

春になると、幼い頃の遠い記憶そのまま、一面のれんげ畑が広がります。その中に身を沈めながら摘んだ花びらで染めた花を、たっぷり水で煮出すと、思っていた通り、美しい赤ワインの色を出してくれました。熱い湯気と、春の土の匂いに包まれながら、そーっと染液に糸を沈めます。

今でもそうですが、その瞬間のドキドキした緊張感と、どんな色糸に吸取させてくれるだろう、という期待でゆったりと染液に浸っている糸を見つめている時、染めの面白さが、体全体にしみわたってくるのを感じます。その時、糸が吸収した色は、緑味を帯びた鮮やかな黄色でした。

それまでの乏しい知識と経験から考えると、前処理の段階で使った媒染剤(発色と、色素を吸着させるため使用する薬品)では、淡い赤紫色か藤色に染まるはずでした。それなのに、全く想像もしない色が現われたのです。れんげの葉や茎を使ったのなら、納得できません。あの赤紫の花びらが、黄色の、それ

もこんなに鮮やかな色素を持っていたとは思ってもみませんでした。

その頃、二人の子供はまだ小学生。きれいな澄んだ黄色に染め上った糸を、竿に通しながら思ったものです。

二人の子供達も、きっとこのれんげのように、それぞれ自分の色を持っているのだということ。そして、私達大人は、その持っているはずの色を、充分に引き出してやるのが出来るのだからかという不安と、決して、親の好きな色で、子供達を染めようとしてはいけないということ。

あれから、もう九年が経ちました。あの日、れんげの花が教えてくれたことを、いつも心の片隅におきながら子供達に接してきました。二人共、これからの人生、たくさんの人に巡り会えることとしましょう。その出会いの中で、巡り会えた方々から、いろいろな色をいただ

「工房くるみ」について

氏田さん達お仲間が集まって作っている草木染の会の名称です。

くるみは、一番良く使用されている染料で、茶・ピンクからグレーまで幅広く、二十〜三十色が染められ、同じ木でも、春夏秋冬、異なった色を演出し

いて、自分だけの色を、より深い、味わいのあるものにしていってほしいと思います。丁度、植物の色が、ひとつひとつ、自己を主張しながらも、それぞれに、やわらかく、暖かいように。そして、どの色と合わせても、はじきあうことなく、自然に溶けこんで、お互いをやさしく包みこんでくれるように。

現在住んでいる横須賀では、もう、れんげの花を手に入れることは出来ません。四季折々、染料を求めてあちこちの野山を歩きますが、近年は開発の名のもと、自然が失われ、それもだんだんむつかしくなってきました。そんな時、各地の友人が送ってくれる染料は、本当に有難いものです。今年も、故郷の友人から、二十kg程のくるみの実が届きました。九州の陽の光を浴びて育った実は、どれも固くしまつて、目のさめるような緑です。

こうして、たくさんの人に助けられ、支えられて、何より自然の恵みをいただき、教えられながら、好きなことを続けていける幸せをしみじみと感じています。

てくれるということ。そんな、くるみに「有難う」の気持ちをこめて工房の名称にされました。

「工房くるみ」は、二年に一度位の割合で作品展を開いておられるので、お近くの方はごらんになられたらいいでしょう。

(広報委員)

竹田を想う

麻生 幸雄(22年卒)



麻生 幸雄氏

臥牛と聞けば岡城を条件反射の如く思い出す。

昭和二十二年卒(第四十七期)四十四年も前、あらゆることが霧の如く遠くばやけた遠い昔であるが、矢張り子供頃の懐かしい思い出が走馬燈の如く頭の中を駆けめぐる。もう東京の生活が遙かに長い、竹田の同級会の通知を頂けば同級のメートの顔が次々と思いで出される。

馬に乗って登校

「牛に引かれて善光寺参り」ならぬ、「馬に乗って登校」と言えば、戦時中の配属将校を思い浮かべる人が多いだろう。しかし、配属将校なら「馬に乗って出勤」と言わなくてはならない。「登校」であるからにはそれは生徒である。その生徒が私である。特に名は秘したい。

私は、戦時中の竹田中学校に学んだ。中学校への通学片道一里強、級友の颯爽とした自転車(当時私にはそ

山紫水明の地を故郷にもち祖母、傾阿蘇、あの岡城址、仕事の上で故郷の話で自慢の種、人にも誇れる故郷である。

戦中、戦後と中学で過ごした五年間ではあるが、顧みれば人生の礎の様な期間であった。その後の人生で色々なことがあった。いやこれからもあるだろうが、中学の五年間での友人、そしてあの竹田の風景が何時も心の中の励ましもある。

同じ様な思い出をもつ同窓の諸氏が竹田を遠く離れ、あの気概をもちつつ関東で集う、これも又人生の意気に感じる一面でもあろうか。

たまに竹田に帰り、第三者の目で見ると、他郷の地を感じるこの頃ではあるが、矢張りいい所だなあ! と言いたい一杯。過ぎ去った級友と培った友情そしてあの幼い顔、顔、顔。会う機会を持ちたいと切々思うこの頃である。

う見えた)通学を見て父に自転車をねだった。しかし、父は、「自転車は登り坂が不便、馬の方がよい。」と言って仔馬一頭を百二十四円で購入して来た。当時「富士」の自転車とほぼ同額だった。

しばらくの間、私は仔馬に熱中し、とうとう乗馬の達人(?)になり、馬に乗っての登校となったわけである。馬上から先生や上級生に敬礼をして校門をはいった時の痛快さは、今でも忘れられない。そして、先生と上級生からのビンタの味も。

会員の紹介

飯尾氏の作品NHKで放映

(主演 田村 高廣)

広報委員 古庄史郎 (38年卒)

竹田高校関東同窓会会員の作家飯尾憲士氏の作品が、NHKスベシヤルでドラマ化されることになりましたのでご紹介します。

このドラマは、竹田で生れ育った氏が、氏の父親の死後三十数年経ったある日、父の故国である韓国に父の位牌を持ち帰る事で、父の故国の親族に父の死を知らせる韓国訪問を思い立つ。

そこでは、韓国と日本の不幸な歴史体験にも拘らず、父の国の人達は親族の一員として、民族や人種を越えた「血族」として、暖かく迎えてくれる感動的な出会いがあった。

言葉も通じず、意思の疎通もままならない。しかし、別れの時が来て、その叔父、叔母、いとこたちは、もう一つの

国に帰る「私」の前で、悲しみに耐えきれず、泣き崩れた。

「私」は、その親族たちに、「かならず、帰ってきます。」と言った。その言葉は、「私」にとって、とても自然だった。

このドラマは、氏の代表作『ソウルの位牌』(元直木賞候補作品)を基に成された日韓共同制作のエッセイドラマとして、放送記念日前後(三月末か四月)に放送される予定です。

題名 「離別(イビヨル)」
出演 田村高廣ほか韓国人俳優多数
脚本演出 岡崎 栄
原作 飯尾憲士『ソウルの位牌』集英社文庫発行

ですが、これほど大勢の方々が年一回のこの同窓会を楽しみにしておられるという事です。

「案内状が届かない。」

「名簿に名前が載っているのか。」

といった苦情や、

「東京に転居してきたので名簿を訂正して欲しい。」

「今日、同窓会があることを人に聞いて来た。出席できるか。」

といった方が多く、それもこれも、竹田高校同窓会を誇りにし、又楽しみにしているあらわれではないかと思えます。

「あんたん兄貴は、元気にしちよるな。」

「うん、ところでトシちゃんは今、何しよるんな。」

と言った竹田弁丸出しの会話を聞いていると、今、竹田に帰っているような雰囲気になり、十七・十八歳の若き日にタイムスリップします。

また、一部の会員の方に「受付は、懇親会に出られなくて気の毒である。」というありがたいお言葉がありました。私共は、現金を扱っていることと、懇親会が終る頃には支払いもすべて済ませる必要があるため交替で参加させて頂いております。

それよりも何よりも、楽しく、そして「出席してよかった。」と言われるような同窓会とするため、財務委員会も全員が、微力ではございますが力を尽くして頑張ります。今後ともよろしくお願ひします。

委員会より

財務委員会の仕事

財務副委員長 緒方 義信 (38年卒)

今回は、ご存知ない方が多いと思いますので財務委員会の仕事を紹介させていただきます。

現在、関東同窓会には、会長以下役員の下に、企画・組織・広報・総務・財務の五つの委員会が設置されており、財務委員会は、名称だけはいかめしく、同窓会の財産管理等しているのではないかと思いでしようが、実は

そうではなく、定時総会当日の受付(会計)を担当しており、受付に並んでいるのが私共財務委員会のメンバーです。

総会当日は、出席者の人数、各種会費の徴収、会場費等の支払いを間違いないよう済ませ、収支を合わせることに主眼仕事です。

受付をしていて感じることは、例年百六十名もの方にご出席頂いております。

アフターサービスで地元で奉仕する

総合電化専門店

株式会社 マコト電気

代表取締役 社長 佐藤映之

(昭和28年卒)

本社・西荻店 〒167 東京都杉並区西荻北2-9-15 (中央線西荻窪駅北口)

TEL.(03)395-2267 FAX.(03)395-2268

成増店 〒175 東京都板橋区成増1-31-12 TEL.(03)3979-5801 (東上線、地下鉄有楽町線成増駅そば)

大泉店 〒117 東京都練馬区東大泉6-51-4 TEL.(03)3867-5301 (西武練馬大泉学園駅南口2分)

橋本店 〒229 神奈川県相模原市橋本4-17-8 TEL.0427-71-8034 (横浜線、京王線橋本駅北口3分)

あとがき

☆臥牛五号をお届けいたします。

☆高宮昇氏の「臥牛の充実を願って」の

玉稿は、依頼文でも投稿文でなく、編集

者宛の私信です。委員会でも検討し、ご本

人のお許しを得て、全文を掲載させて

いただきました。高宮様、ありがとうございます。

☆作者飯尾憲士氏の「ソウルの位牌」の

ドラマ化、そして放映は、嬉しいニュース

です。このように「会員の紹介」を続

けます。会員の情報提供をお願いします。

☆「ふるさと便り」は、今回からお二人

にお願ひすることになりました。波

多野氏には、毎号ご執筆いただくこと

になっています。波多野様よろしく。

☆会員の未発表の投稿をお待ちいたし

ます。今、手もとに三編でございます。

臥牛に対するご感想も鶴首、よいお年

(足立)

